

競技注意事項

2024. 4. 26 時点

1. 規則について

本大会は 2024 年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および本大会の申し合わせ事項により実施する。

2. 競技場使用上の注意

- 1) 当該種目出場競技者、競技役員、主催者が許可した報道関係者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技場外構部周辺およびコンコースでの練習は、事故防止のため厳禁とする。
- 3) コンコース、リングロードでの自動二輪車、自転車等の車両での移動は厳禁とする。
- 4) フィールド競技の練習は競技役員の指示に従い、競技開始前に各々の競技場所にて行うこと。
- 5) グラウンドおよび練習場では、競技場保護のため水以外の飲料の持ち込みは厳禁とする。
- 6) トレーナー活動は、各大学の待機場所にて行うこと。
- 7) 練習は B2F リングロードおよび室内練習場を利用し、競技役員の指示には必ず従うこと。なお、練習場の詳細については、練習場注意事項を参照すること。

3. 競技者の招集について

- 1) 招集所は、200m スタート地点後方の GATE5（諸室図参照）に設置する。
- 2) 各種目の招集開始・完了時刻は競技日程に記載の通りとする。
- 3) 招集開始時刻に競技者係から競技者本人が点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技靴、スパイクピン、競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等の商標のチェックを行う。また、荷物運搬袋および、トラック種目出場者のみ腰ナンバー標識（2 枚）を受け取ること。
- 4) 競技者はビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技エリア内に持ち込んで서는ならない。スマートウォッチについては電波を発信しない状態（機内モードなど）に設定している場合のみ、持ち込みを認める。
- 5) 代理人による点呼は認めない。ただし、2 種目以上を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が TIC（招集所横）または大会インフォメーションに用意している「重複出場届」を、**招集を受けることができない種目の招集開始時刻までに TIC（招集所横）に提出すること。**
- 6) 招集完了時刻に遅れた場合や、「重複出場届」および「リレーオーダー用紙」がそれぞれの指定された時刻までに TIC（招集所横）に提出されない場合、当該種目を欠場したものととして処理する。
- 7) 招集開始および完了は、招集所に設置されている時計を基準として行う。
- 8) リレー種目は、オーダー変更の有無にかかわらず、ラウンドごとに、その都度オーダー用紙に記入して、**当該種目第 1 組の招集完了時刻 1 時間前までに TIC（招集所横）に提出すること。**なお、オーダー用紙は大学受付にて配付する ID とアスリートビブスに同封する。
- 9) 棒高跳の練習は競技実施場所で競技開始時刻 1 時間 40 分前から行うことができる。また棒高跳の招集は競技実施場所にて行う。
- 10) 日本大学陸上競技場にて実施する種目（砲丸投・ハンマー投）については現地招集とする。
- 11) 混成競技の招集時刻については 8. 競技について 4) を参照すること。

4. アスリートビブスについて

- 1) アスリートビブスは 1 名につき 2 枚配付する。そのままの大きさと胸と背に確実につけること。ただし、跳躍種目出場者は胸または背だけでもよい。
- 2) トラック種目出場者は、競技者係（招集所）が配付する腰ナンバー標識を両腰の上部、やや後ろにつけること。なお、5000m、10000m、10000mW においては、周回の確認のため、トランスポンダー付きの腰ナンバー標識を使用する。トランスポンダー付きの腰ナンバー標識は左腰につけ、通常の腰ナンバー標識は右腰につけること。
- 3) 5000m、10000m、10000mW、4×400mR に出場する競技者には、レース用特別アスリートビブスを配付する。**当該種目第 1 組の招集完了時刻 1 時間前までに TIC（招集所横）に受け取りに来ること。**混成競技出場者には、最終種目のみ特別アスリートビブスを該当種目開始前に配付する。
- 4) ハーフマラソンに出場する競技者は、招集時に特別アスリートビブスを配付する。

5) アスリートビブスの地色、数字の色は次表の通りとする。

| 部門・種目 | アスリートビブス |
|---|-----------|
| ● 男子1部 | オレンジ地×黒数字 |
| ● 男子2部・3部 | 青地×黒数字 |
| ● 女子1部・2部 ● 七種競技 800m | ピンク地×黒数字 |
| ● 5000m・10000m (男子1部) ● ハーフマラソン (男子1部) ● 10000mW (男子1部) ● 4×400mR (男子1部) | 黄地×黒数字 |
| ● 5000m・10000m (男子2部・3部、女子1部・2部) ● ハーフマラソン (男子2部・3部) ● 10000mW (男子2部・3部、女子1部・2部) ● 4×400mR (男子2部・3部、女子1部・2部) ● 十種競技 1500m | 白地×黒数字 |

5. 欠場について

エントリー後、病気または事故等により、やむなく欠場する場合は、5月8日(水)12時00分までは、本連盟ウェブサイトに掲載をしている欠場届を印刷し、必要事項を記入、押印したものを指定アドレス(kanto-entry@kgrr.org)に送信すること。

また、5月8日(水)12時00分以降に欠場を申し出る場合は、欠場届に必要事項を記入、押印しTIC(招集所横)に提出すること。欠場届はアスリートビブス等の事前配付物に5枚同封しているが、不足の場合は大会本部指定の用紙をTIC(招集所横)、または大会インフォメーションに取りに来ること。

男子5000m・10000mについては、番組編成上、5月1日(水)17時00分の時点で故障等により欠場が確定している選手は、速やかに本連盟宛に欠場届を提出すること。

6. 競技の抽選・番組編成

- 1) トラック種目のレーン順・フィールド種目の試技順は、プログラムに記載通りとする。
- 2) 予選・準決勝の組み合わせにおいて、成績に基づく順列で同じ組に同一大学所属の競技者が複数入る場合は、ランキングに大きな変動を及ぼさない範囲で異なる組に入れるよう配慮する。また、準決勝以降のレーン順は主催者が公平に抽選する。
- 3) タイムによる次ラウンドへの進出者(チーム)を決定する時に、最終枠に同記録(0.001秒単位)がありレーンが不足する場合は、当該競技者もしくはその委任を受けた代理人により抽選を行い、進出者(チーム)を決定する。

7. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具(投てき物・棒高跳用ポールを除く)は、すべて主催者が用意したものを使わなければならない。
- 2) 棒高跳の練習に関しては、主催者が用意するゴム製バーを使用して行うこと。
- 3) 投てき物に関して、主催者が用意した投てき物としてリストに複数ないものについては、検査に合格した個人所有のもの(日本陸連検定品およびWA認証品に限る)を2個まで使用できる。
- 4) 投てき物の持ち込みを希望する場合は、**事前に申請書を記入し、競技開始の2時間30分前までにGATE4器具庫にて受付を行い、公式計測員による検査を受け、使用することができる。**なお、検査に合格した投てき物は主催者で借り上げ、競技者全員が使用できるものとする。持ち込みの投てき物は競技終了後、GATE4器具庫にて返却する。

8. 競技について

- 1) トラック競技について
 - ① 計時はすべて電気計時(0.01秒)を用いて行う。
 - ② 5000m以上の種目では、バックストレートに給水所を設置し、水およびスポンジを用意する。
 - ③ 10000mWでは、先頭の競技者が残り1周となっても競歩審判員は移動しない。残り100mからフィニッシュまでの間で、競技者の歩型が競技規則TR54.2に明らかに反する時には、競歩審判員主任はその競技者に既に出されたレッドカードの有無にかかわらず、当該競技者を単独で失格にする権限を有するものとする。

2) リレー競技について

- ① リレーメンバーに関しては、TR24.10〔国際〕を適用し、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいても、その競技会のリレー競技または他の種目に申し込んでいる競技者であれば、誰でも出場することができる。
- ② 最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、最大 4 名まで他の競技者と交代することができる。

3) 跳躍競技について

- ① 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。(ただし、天候等の状況により変更することもある)。※練習の高さは競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

| 種目・種別 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 以降 | | | |
|-------|----------|------|------|------|------|------|---------------------------------|------|------|------------------------------------|
| 走高跳 | 男子 1 部 | 1m95 | 2m00 | 2m04 | 2m07 | 2m10 | 最後の 1 人になり 優勝者が決まるまでは 3cm 刻み | | | |
| | 男子 2・3 部 | 1m90 | 1m95 | 2m00 | 2m03 | 2m06 | | | | |
| | 女子 1・2 部 | 1m60 | 1m64 | 1m67 | 1m70 | 1m73 | | | | |
| 種目・種別 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 以降 |
| 棒高跳 | 男子 1 部 | 4m70 | 4m80 | 4m90 | 5m00 | 5m10 | 5m20 | 5m30 | 5m35 | 最後の 1 人になり 優勝者が決まるまでは 5cm 刻み |
| | 男子 2・3 部 | 4m20 | 4m30 | 4m40 | 4m50 | 4m60 | 4m70 | 4m80 | 4m85 | |
| | 女子 1・2 部 | 3m30 | 3m50 | 3m60 | 3m70 | 3m80 | 3m90 | 4m00 | 4m05 | |

- ② 三段跳の踏切板の位置は、砂場の近いほうの端から男子 13m、女子 10mとする。

4) 混成競技について

- ① 招集は 1 日目、2 日目の最初の競技種目でのみ招集所で行う。招集時刻は競技開始時刻の 30 分前に開始し、20 分前に完了とする。ただし、七種競技 2 日目の走幅跳は 60 分前に開始し、50 分前に完了とする。なお、以後の招集は行わない。競技者は次の種目からは混成競技者控室に待機し、混成競技係の指示を受けること。
- ② 混成競技者控室はチーム更衣室 1 に設置する。
- ③ 混成競技者控室への付添、コーチ等の出入りは認めない。
- ④ 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次表の通りとする(ただし、天候等の状況により変更することもある)。※練習の高さは、競技場所にて複数提示され、競技者はその中から選択する。

| 種目・種別 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 以降 |
|-------|----|------|------|------|------|------|------|------|---------|
| 走高跳 | 男子 | 1m60 | 1m65 | 1m70 | 1m75 | 1m80 | 1m85 | 1m90 | 3cm 刻み |
| | 女子 | 1m40 | 1m45 | 1m50 | 1m55 | 1m60 | 1m63 | 1m66 | |
| 棒高跳 | 男子 | 2m70 | 3m00 | 3m30 | 3m60 | 3m80 | 4m00 | 4m10 | 10cm 刻み |

5) ハーフマラソンについて

競技開始 1 時間 10 分後で国立競技場 GATE3 を閉鎖する。GATE3 を通過できなかった競技者は以降の走行を止め、競技役員の指示に従う。フィニッシュできなかった競技者はその時点で失格とする。

6) 助力について

- ① 当該競技に関係するしないに関わらず、競技役員がある競技者に対して他競技者よりも有益となるような助言またはその他の支援を提供することは、当該競技者への助力とみなす。
- ② 周回遅れか、周回遅れになりそうな競技者が先行する競技者のペースメーカーとして競技をした場合、または先行する競技者が周回遅れの競技者のペースメーカーとして競技をした場合、両者を失格として扱う。
- ③ フィールド種目に出場している競技者に対して、録画映像を提供する者のすぐ近く(コーチングエリア近辺)であれば、録画した機材(ビデオ装置・携帯電話等)を競技者自身が手に取り、操作して確認することが認められる。しかし、競技者自身が録画機材等を招集所から持ち込むこと、映像確認後に競技場所等へ録画機器を持ち込むことは禁止とする。

- 7) コーチングエリアについて
監督・コーチエリアを1層スタンド1~6列目に設ける。

9. 表彰について

- 1) 男子1部・2部・3部、女子1部・2部の総合優勝校、男子1部・2部、女子1部のトラック・フィールド優勝校、男子1部・女子1部の多種目優勝校を表彰する。また、すべての競技終了後、本大会最優秀競技者を男子1部・2部、女子1部より各1名選出し、表彰する。
- 2) 男子1部・2部、女子1部の各種目3位までに入賞した競技者は、競技終了後に表彰を行う。競技終了後、速やかにメインエントランスホールの表彰控え場所に集合し、式典表彰係の指示に従うこと。
- 3) 男子1部・2部、女子1部の各種目4位から8位までに入賞した競技者は、賞状を授与するので、大会期間中に大会インフォメーションで賞状を受け取ること。
- 4) 男子1部・2部、女子1部10000mの表彰は、5月10日(金)11時15分から実施する。
また、男子1部・2部十種競技の表彰は、5月11日(土)10時45分から実施する。
そして、男子1部やり投の表彰は、5月12日(日)11時10分から実施する。
- 5) 日本大学陸上競技場にて実施する種目(砲丸投・ハンマー投)の表彰は、国立競技場にて行う。
- 6) 表彰を受ける際は、上は各校の公式ユニフォーム、下は公式ジャージを着用すること。
また、アスリートビブスも着用すること。
- 7) 代理表彰は一切認めず、不在の場合は空席として表彰を行う。

10. 対校得点および順位

- 1) 総合、トラック、フィールド優勝校は、最多得点校1校とする。
- 2) 得点は、男子1部・2部、女子1部は各種目1位8点から8位1点まで1点刻みとする。また、男子3部および女子2部は、1位3点、2位2点、3位1点とする。
同順位により、対校得点を割る場合には小数計算(ただし、同順位が小数計算で算出できない場合は分数計算とする)を行う。その計算は、記録・情報処理員が行う。
- 3) 最多得点校が2校以上ある場合は、優勝種目数の多い順で決定し、これで決定しない場合は2位の種目数の多い順で決定し、これでも決定しない場合は、以下同様に順次8位まで種目数の多い順で決定する。これで決定しない場合は男女ともに4×400mRの順位で決定する。
- 4) 2位以下の順位は得点順とし、同得点の場合は、3)に準じて決定する。これで決定しない場合は、同順位とする。
- 5) 男子1部・2部の入れ替えについては、2部優勝校と2位校が次年度1部に昇格する。また1部においては下位の2校が2部に降格する。また1部最下位校が無得点で3校以上となった場合は、その全大学が2部に降格し、同数の2部上位校が1部に昇格する。また、1部最下位校が同得点で3校以上並び、3)によっても順位がつかない場合は抽選により2校が2部に降格し、同数の2部上位校が1部に昇格する。

11. 男子3部・女子2部について

- 1) 番組編成について
男子3部は同2部、女子2部は同1部の予選の番組編成に組み入れ、タイムレース決勝とする。ただし、レーンを使用するトラック種目において、同一種目に3名以上の申し込みがあった場合は、男子3部、女子2部のみで1つの組を編成することがある。なお、その場合は、男子3部は同2部、女子2部は同1部の決勝の前に組み入れる。フィールド種目の試技順については、男子2部、女子1部の後に組み込む。
- 2) 競技について
 - ① フィールド競技について
走幅跳、三段跳、投てき種目については、3回の試技で順位を決定する。
走高跳、棒高跳については、男子2部、女子1部と同様の試技回数とする。
 - ② 混成競技について
フィールド種目の試技順については、男子2部、女子1部の後に組み込む。
- 3) 表彰について
各種目3位までに入賞した競技者は、賞状を授与するので、大会期間中に大会インフォメーションで賞状を受け取ること。なお、種目別表彰は行わない。

4) 対校得点および順位について

- ① 総合優勝校の決め方については、10. 対校得点および順位と同様とする。
- ② 男子3部および女子2部の入れ替えは行わない。

12. 結果発表と抗議について

- 1) 各種目の結果の正式発表は大型スクリーンで行う。
- 2) トラック種目のスタートに関して、現場での抗議（競技中の抗議）があった場合、「抗議中」として赤白カードを提示した上で、競技をすることが認められる。
- 3) フィールド種目において、現場での抗議（競技中の抗議）があった場合、審判長により該当する事項を保全するためにその試技を計測、記録することが認められる。
- 4) 競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表されてから30分以内（同一日に次のラウンドがある場合は15分以内）に、TIC（招集所横）にある抗議受付用紙に記入する。その後、担当総務員（大会本部に常駐）を通じて審判長に伝達される。時間内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなす。抗議に対して審判長は速やかに裁定を行う。

その裁定を不服とし、さらに抗議をする場合は、上訴申立書（大会本部に用意）に必要事項を記入し、預託金10,000円を添えて上訴することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。この間の事務的処理は担当総務員が行い、抗議者は抗議室で待機すること。なお、抗議受付窓口はTIC（招集所横）に設置する。

13. ドーピング・コントロールの実施について

- 1) 本大会は、ワールドアスレティクス(WA)アンチ・ドーピング規則および規程、もしくは日本アンチ・ドーピング規程に基づく競技会（時）ドーピング検査対象大会である。競技会（時）検査は、大会前日23時59分から検査が終了するまでの期間であり、尿または血液（あるいは両方）の採取が行われる。検査該当者は、検査員の指示に従って検査を受けること（競技/運動終了から2時間の安静後に採血が行われることもあるので留意すること）。
- 2) 競技会（時）検査の対象となった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた学生証、運転免許証、または顔写真が鮮明なパスポートのコピーなどを持参すること。
- 3) 本大会参加者は、競技会にエントリーした時点で日本アンチ・ドーピング規程に従いドーピング検査の対象となることに同意したものとみなす。したがって、本大会参加者はドーピング検査（尿・血液等検体の種類を問わず）を拒否または回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続を完了することができなかつた場合等は、アンチ・ドーピング規則違反となる可能性がある。アンチ・ドーピング規則違反と判断された場合には、日本アンチ・ドーピング規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。
- 4) 本大会参加者は、JADA クリーンスポーツ・アスリートサイト(<https://www.realchampion.jp>)などを利用して、アンチ・ドーピングについて事前に学習しなければならない。
- 5) TUE 申請

禁止表国際基準で定められる禁止物質・禁止方法を病気の治療目的で使わざるを得ない競技者は“治療使用特例(TUE)”の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のウェブサイト(<http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>)または日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト(<https://www.realchampion.jp/resources/000162.html>)を確認すること。禁止物質・禁止方法についてTUEが付与されている場合には、その証明書（コピーで可）をドーピング検査の際に担当検査員へ提出すること。

14. 商標等について

競技者が競技エリアに商品名のついた衣類、バックなどを持ち込む場合は、日本陸上競技連盟の「競技会における広告および展示物に関する規程（国内）」を遵守すること。基準をこえる商標や競技役員から指導・指摘された場合は、必ずテープ等を貼って隠すこと。

15. 衣類の管理について

- 1) 荷物運搬用としてビニール袋を招集所で用意する。大学名、氏名、組数を招集所入口で記入すること。
- 2) スタート前に脱衣した衣類等は、ビニール袋に入れ競技役員が指示した場所に置くこと。これらの衣類は、ただちにフィニッシュ付近に運ばれるので、フィニッシュ後各自で受け取り退場すること。

16. 緊急車両・応急処置の手配について

- 1) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部および競技場の許可なく手配をしないこと。手配する場合は、競技場より車両の手配を行うので、詳細を含め大会本部に連絡すること。
- 2) 競技中の事故等による身体の故障の場合、医師が応急処置を行うが、事故の結果について主催者は一切責任を負わないものとする。また、治療費等は本人負担とする。ただし、2024 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

17. その他

- 1) 競技終了後は、必ずミックスゾーンを通ること。
- 2) 式典について
本大会は開会式・閉会式を実施する。実施方法については、別途連絡する。
- 3) 入場規制について
本大会では、以下の区域に立ち入る者は、指定の ID カードを所持していなければならない。競技者は必ず ID カードをつけ、アスリートビブスでの規制エリア内への入場は認めない。ただし、招集を受けた後はその限りではない。

| | |
|-------------------|--------------------|
| 規制エリア | 入場可能 ID (いずれか1つで可) |
| 雨天練習場 | 競技役員・チームスタッフ・選手 |
| 監督・コーチエリア | 競技役員・チームスタッフ |
| グラウンド・招集所・ミックスゾーン | 競技役員・選手 |
| 各諸室 | 競技役員 |

- 4) 競技中に不測の事態が発生した場合は大会本部の指示に従うこと。その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。

一般社団法人関東学生陸上競技連盟